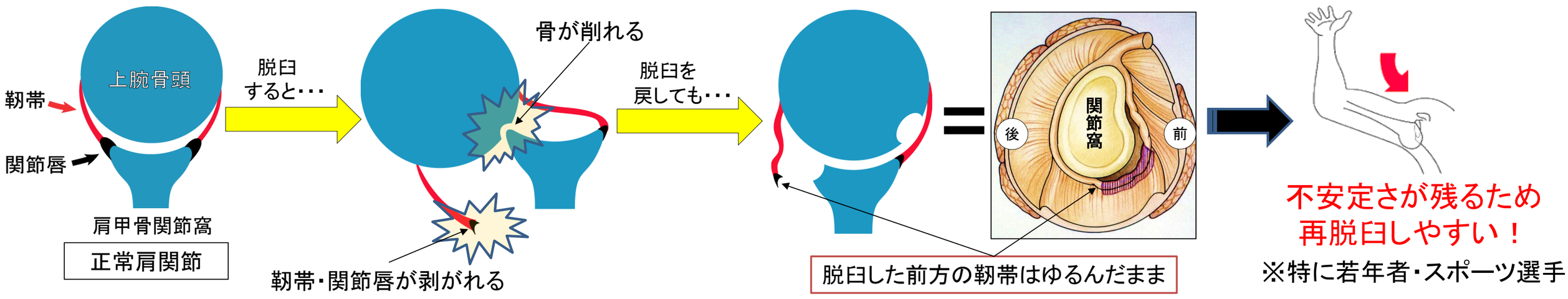
反復性肩関節脱臼・亜脱臼の手術　Q&A

博多メディカルクリニック

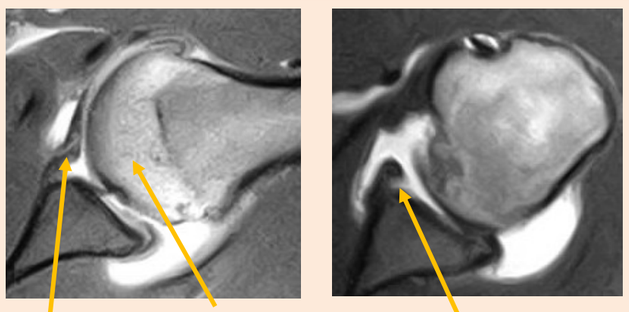
Q1. どうして脱臼・亜脱臼を繰り返すの？

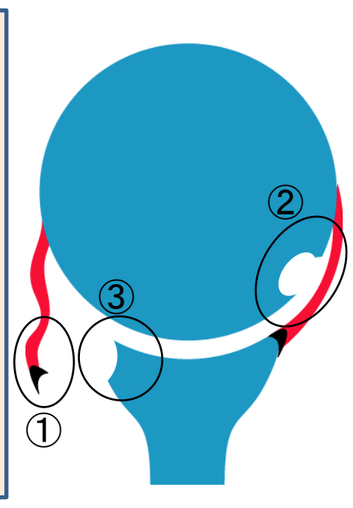


Q2. 手術前のCTやMRI検査で何がわかるの？

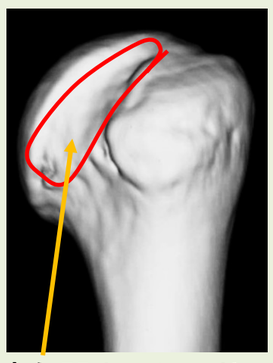
- CT：主に骨の形態、損傷を確認
- 関節造影MRI：レントゲンやCTでは描出されない靭帯や関節唇の損傷を確認　（注：検査前に造影剤を関節内に注射して詳細に評価します）

①靭帯・関節唇の損傷＝関節造影MRI

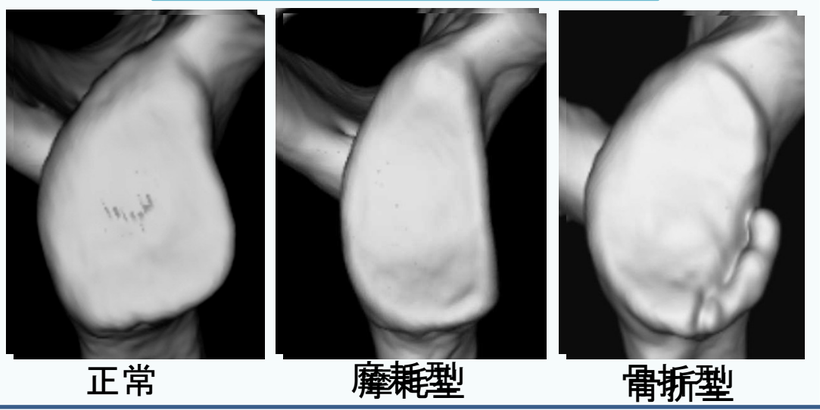




②骨頭の損傷形態＝CT



③受け皿の骨の欠損形態＝CT



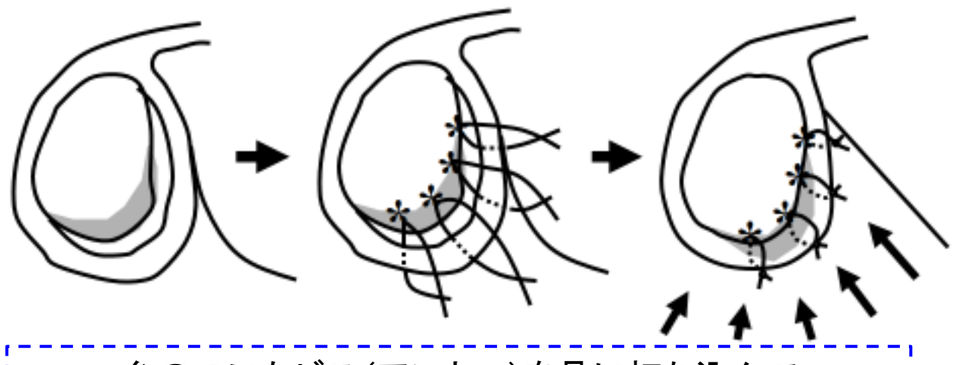
Q3. 手術はどのように行っているの？

- すべて関節鏡を用いて行っております。
- 傷の大きさ＝通常1cm弱×3か所
- 手術時間＝1時間弱

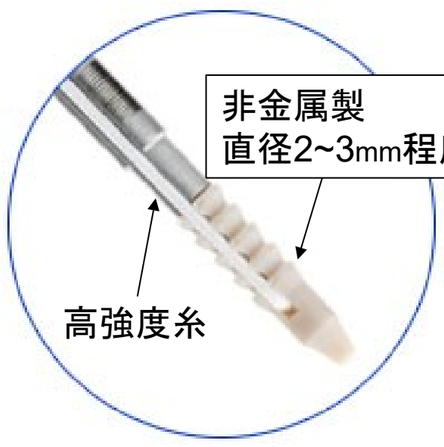
実際の手術風景

手術翌日の傷の状態

〈術式〉鏡視下関節唇修復（バンカート）術



糸のついたビス（アンカー）を骨に打ち込んで
損傷した関節唇・ゆるんだ靭帯を緊張をかけて修復



使用しているアンカーの1例

※ 継続したい競技種目や骨の損傷程度により、さらに追加の処置を行うことがあります

Q4. どのような麻酔をしているの？

- 経験豊富な麻酔科医の管理のもと、全身麻酔に神経ブロックを併用して麻酔を行っています。

全身麻酔＝手術室に向かう前に病棟で点滴を留置します。
手術室で点滴の管から薬をいれて眠った状態で手術を行います。
全身麻酔は深い眠りのため、口の中にチューブをいれて人工的に呼吸の補助を行います。

腕神経ブロック＝手術執刀前に首の付け根から、肩や腕にいく神経に注射をします。（右側写真参照）
ブロックを行うことで、術後12時間程度ほとんど痛みを感じることはありません。

神経ブロック（超音波併用）

Q4. 入院期間は？

- 通常、3泊4日～5泊6日の入院で、1週間以内に退院可能となります。（※ 体調によって、退院日の調整は可能です）

初日（術前日）
装具合わせ、手術側わきの剃毛
入浴、 リハビリでの術前評価

2日目（手術当日）
手術
術後3時間で安静解除後、歩行・飲食開始

3~6日目（手術3~5日目）
朝：リハビリ、消毒、装具装着指導
退院

Q5. 退院後の生活は？装具をいつまで装着するの？

更衣・入浴：退院直後から自分自身で可能となります。（正しい方法を入院中に指導します）
リハビリ：退院後すぐに開始します。
通学：退院後すぐに許可しています。
抜糸：術後10日目頃に外来で行います。（※抜糸前は傷口の汚染に注意してください）
装具：約2~3週間継続します。（右側写真参照：通常は衣服上に装着します）
運転：装具がはずれてから可能となります。

Q6. 仕事復帰や競技復帰の時期は？

- 仕事に関して
  仕事は、デスクワークであれば、退院後すぐに許可しております。軽作業の場合は術後2~3ヶ月、重労働の場合は、術後5~6ヶ月頃から可能となる見込みです。
- 競技復帰に関して
  術後約1ヶ月でジョギングや体幹・下半身の運動を開始します。
  手術をした組織の修復には約3ヶ月を要するため、肩に負担のかかる競技やトレーニングの開始は術後約3ヶ月頃となります。
  競技完全復帰時期はスポーツ種目や個人の回復具合により異なりますが、術後5~6ヶ月頃を目標とします。
- 通院について
  原則、術後2年間は診察を継続し、肩の状態を定期的に確認します。
  リハビリも競技完全復帰まで継続的に行います。